

地方通信



愛知縣便り

愛知縣は衣ヶ浦綜合港灣による半田地方の新興工業都市造成、また東春勝川、寶飯豐川兩地方の工業地帯化による市街地計畫が近く達成される立場上、これらを結ぶ交通對策の至急なる實現が要請されてゐる、まづ愛知縣の道路計畫は六千萬圓道路計畫と軍産道路計畫の二本建により躍進愛知の道路網の完成を期せんとし目下着々と實施されてゐる。六千萬圓計畫は遠く昭和三年に起工し、年額百萬圓づつで三十ヶ年繼續事業、これで縣内の道路網を全部改良する計畫だつたが、最近の急調子な經濟發展はこれをもつては満足せず生れたのが軍産道

路計畫で、さる昭和十四年より

十四年 七十六萬八千圓

十五年 百八萬七千圓

十六年 百七萬圓

十七年 七十三萬九千圓

を追加豫算にて投じ道路改良、鋪裝工事をなしてゐる。この兩計畫により完成されつゝある主要幹線は名古屋より放射的に發する名敦道路(名古屋犬山間完成)瀬戸線(名古屋瀬戸間一部を残して完成)舉母線(名古屋舉母間平針を残して完成)半田線(完成)津島線(一部のみ)坂下線(あと三年にて完成)のほか飯田線(名飯バス線に沿つて信州飯田へ)伊奈線(三信鐵道に沿うて南信へ)知多環狀線などがある。

國による東海道改修工事(名古屋以東が未完)名阪彈丸道路が完成すれば、道路網に關する限り一應の完成であるが、一方運河による輸送力擴充も當局により眞剣に考慮されてゐる。

名古屋⇨大阪間を二時間で結ぶ自動車専用道路「名阪國道」は昨年豫算審議で採擇されず立消えのところが戦時下交通動員計畫完遂の見地から企畫院方面から再検討を懇請してきたので内務省大阪、名古屋兩土木出張所では二十四日から三日間高橋大阪、富永名古屋兩土木出張所長、諸井參宮國道事務所長、千田名古屋土木出張所工務部長等が慎重な實地視察を行つた。「名阪國道」は名古屋を起點に桑名から四日市附近を経て龜山、伊賀上野、笠置、田邊、枚方から大阪にいたる延長百二十キロの路線で京都奈良⇨支線を敷設、幅員は二十二米で中央に線地帯を設け鐵道、道路との交叉は立體交叉とし鈴鹿をはじめ隨所にトンネルを穿ち竣工までに七年以上一億圓の工費と莫

大な資材、労力を必要とするものである。高橋大阪、富永名古屋出張所長は視察後次のごとく語つた。

『上野から笠置にいたる高ケ原、大河原附近が相當難工事ですがその他は容易です、しかしこれを七年でやるとすれば兩出張所管内に散在する大部分の小さい工事は中止しこの國道に全力を集中せねばならないが國でやる仕事としてはかうした重點的なものにこそ力を注ぐべきではないかと思ふ』

長野縣通信

長野縣では十七年度民有林開發林産物搬出施設事業として林道開鑿を計畫し森林資源基本調査に基き本縣林道網第一期計畫中一町步當り平均蓄積用材木四百五十石又は新炭林中二百二十五石以上ありと認めたるものゝ中から厳選して縣營、市町村營、森林組合營により工事を施行すべく調査中のところ漸く全部の決定を見たので夫れ、工事に着手することになつた。内縣工事は

地方通信

一路線工費二萬五千圓市町村營工事は十一路線工費二十四萬二千六百圓森林組合營工事は十三路線工費十四萬八千六百圓であり尙縣營工事は地元寄付工事費の三割雜費の二割五分市町村營及森林組合營工事は地元負擔五割雜費は二割五分の寄付である、各工事施行ヶ所は次の如し。

町村	路線名	工事費
△市町村營事業		
上水鬼無里	大川線	二五、〇〇〇圓
△縣營事業		
下高平穩	岩菅山線	八〇、〇〇〇
上伊七久保	與田切線	二〇、〇〇〇
下伊薮木	小川氏乘線	八七、〇〇〇
東筑朝日	樫又線	四、六〇〇
更敷桑原	不動瀧線	五、〇〇〇
小縣瀨津	瀧ノ入線	五、〇〇〇
下伊山本	米川線	六、〇〇〇
上水鬼無里	大川線	一五、〇〇〇
南佐田口	清川線	六、〇〇〇

下伊大島 大横澤線 八、〇〇〇
計 一一路線 二四二、六〇〇

茨城縣下涸沼橋の開通

水戸磯濱間縣道涸沼橋架橋竣工式は既報の通り七月十三日午前十時を期し盛大に舉行された、同涸沼橋は總工事費十七萬圓を以て昭和十四年六月起工、滿三箇年の日子を費し鐵筋コンクリート工事延長〇〇米、幅員〇米、橋脚七基の堂々たる八間ドライブ道路の最も相應しきモダン橋の出現を見るに至り水戸、三濱間の交通は勿論、産業の進展上大いに期待を掛けられてゐる。

福岡縣下の動脈道擴張

急カーブ萬町難所をふくむ福岡市の動脈道路、縣驛前から赤坂門西部軍司令部前までの縣道を市都市計畫案通り廿五メートル幅に改造、萬町の急カーブもグツと緩やかにしようといふ四ヶ年繼續事業總工費百九十萬圓の道路擴張工事は市當局の手筈も整

ひ十二萬圓の國庫補助申請中だったが、七月十三日の市都市計畫委員會で本決りとなり國庫補助許可があり次第起債、明年度から着工することに決つた。

まづ第一年度は廿二萬六千圓を投じて交通の麗所たる萬町の急カーブ地帯東西兩側を削つて十七メートル幅の現道路を廿五メートルに擴張、逐次東西におよぼすもので五年後には博多の目貫通りに魁けて福岡部の本通りは車道と歩道を備へ縁の並木たちならぶ近代的道路の装ひを凝らすわけである。

豪雨中に咲いた麗しい 交通の佳話

去る七月五日午後四時頃突如京城地方を襲つた豪雨のため東大門外東廟附近の崖が弛んで崩れた土砂は物凄い勢ひで京電清涼里路線に覆ひかぶさつた。時も時官廳、會社の退け時刻とて忽ち附近一帯はこれらの通行人で黒山となり、その上に遠慮もなく

叩きつける豪雨で交通状態は亂狀状態に陥つた。京電工事係では時を移さず工夫十數名を派して土砂の除去作業に取掛つたが、その際通りかかつた東大門前私立興仁國民學校兒童二名は何を思つたかさしてゐる雨傘をかなぐり捨ててスコールのやうに降り注ぐ雨の中を全身ぬれ鼠のやうになりながら除去工事に協力し最後の土塊が撤收されるまで敢闘した。漸く電車の交通が回復して初めて工夫達は健氣な少年のゐたことに氣づいたが、その時は既に二少年の影はなく京電でも八方手を盡してこの奇特な少年の行方を捜してゐたところ八日朝になつて漸く同校六年生吳本國三(一四)林圭原の兩君であつたことが判つた。

臺灣九橋梁の架設計畫

東部兩廳の開発は何とあつても道路橋梁の整備が先決問題であり臺東、花蓮港兩廳に於ても數年前からこれが實現に努め總督府に對し豫算の要求をなしたが當局に於て

も東部開發の急務を痛感し昭和十五年度より向ふ六ヶ年の繼續事業として實施する方針を確立、花蓮港、臺東道路、橋梁架設費總額三百五十五萬三千圓を決定、昭和十五、六兩年度に於ては花蓮港廳下のチャカン溪及び卓溪橋梁架設費として五十七萬九千圓を支出し右の内卓溪は已に竣工を告げチャカン溪も本年度内には竣工を見る豫定である。

